

- | | |
|-----|--|
| 問1 | 『富嶽三十六景』を描いた、江戸時代を代表する浮世絵師は誰？ |
| 問2 | 江戸時代、幕府から営業の独占権を得た代わりに税を支払った、商人の同業者組織を何という？ |
| 問3 | 錦絵の技術を用いて、『富嶽三十六景』などの優れた風景画を描いた人物は誰？ |
| 問4 | 1637年に島原・天草一揆の首領となった人物は誰？ |
| 問5 | 葛飾北斎が『富嶽三十六景』で使用した、当時の西洋から輸入された化学染料を何という？ |
| 問6 | 江戸幕府が鎖国政策のもと、長崎に設置した貿易管理のための人工島を何という？ |
| 問7 | 江戸時代にオランダ船の来航が許された、日本で唯一の貿易港はどこ？ |
| 問8 | 18世紀末から19世紀にかけて、日本近海にたびたび現れて江戸幕府に警戒された国のうち、ロシア以外の国はどこ？ |
| 問9 | 江戸時代の農業において、都市の排泄物を肥料として再利用したものを何という？ |
| 問10 | 江戸時代中期、商業の発展を利用して幕府の財政を立て直そうと、株仲間を積極的に奨励した老中は誰？ |
| 問11 | 江戸時代、農具の改良や肥料の普及により高まった、単位面積あたりの収穫量を指す言葉を何という？ |
| 問12 | 飢饉や米価の高騰に対し、都市の貧しい人々が米屋や商人を襲撃した行為を何という？ |
| 問13 | 江戸時代、外国や異民族との窓口とされた「四つの口」のうち、オランダや中国との貿易が行われた場所はどこ？ |
| 問14 | 江戸時代、オランダ船の窓口として、長崎の湾内に人工的に造られた扇形の島を何という？ |
| 問15 | 工場制手工業（マニファクチュア）が日本で発展した時代は主に何世紀？ |
| 問16 | 株仲間の結成を奨励し、運上や冥加を徴収することで幕府の財政再建を目指した江戸時代の老中は誰？ |
| 問17 | マニファクチュアにおいて、労働者が手作業で効率的に生産するために行われた手法を何という？ |
| 問18 | 異国船打払令により、かえって関係が悪化し、開国を求める圧力を強めたのはどこ？ |
| 問19 | 江戸時代前期に、俳諧を芸術性の高い文学へと高めた人物は誰？ |
| 問20 | 江戸幕府がキリスト教の布教を完全に排除するために、ポルトガル船の来航を禁止した年はいつ？ |
| 問21 | 18世紀後半、蒸気機関の発明により生産技術が向上し、世界で最初に始まった産業の大きな変革を何という？ |

答え合わせ・解説

問1	答え 葛飾北斎	葛飾北斎は、各地から富士山を眺めた景色を描いた『富嶽三十六景』で、浮世絵の中に「風景画」というジャンルを確立しました。大胆な構図と、輸入染料「ベロ藍」を使用した鮮やかな青色が特徴で、当時の人々に衝撃を与えました。
問2	答え 株仲間	株仲間は、特定の商人が商品を独占的に扱うための組合です。幕府に「冥加」や「運上」という税金を納めることを条件に、他の商人がその商品を扱うことを禁ずる権利が与えられました。これにより商人は安定した経営ができ、幕府も経済的利益を得ることができました。
問3	答え 葛飾北斎	葛飾北斎は、錦絵の多色刷り技術を駆使し、大胆な構図で風景を描きました。特に『富嶽三十六景』などの連作は、富士山の多様な表情を捉えた芸術作品として、当時の庶民にも広く愛されました。
問4	答え 天草四郎	1637年に肥前国島原と肥後国天草の農民やキリシタンらが起こした大規模な一揆の際、カリスマ的な指導者として擁立されたのが天草四郎です。彼はわずか16歳前後という若さでありながら、民衆の信仰を集め、幕府軍に対して激しく抵抗しました。
問5	答え ベロ藍	ベロ藍は、フェルロ（ベルリン）で開発されたことから名付けられた化学染料で、従来の天然染料では出せなかった深みのある鮮やかな青色を表現できました。葛飾北斎はこれを用いた風景画で、それまでにない色彩表現を確立しました。
問6	答え 出島	1636年に長崎の港に築かれた扇形の人工島です。もともとはポルトガル人を収容する場所でしたが、その後、オランダ商館が移され、長期間にわたり唯一の西欧との貿易窓口となりました。日本の商人が出入りできるのは限られた範囲のみであり、厳格な監視の下で貿易が行われました。
問7	答え 長崎	長崎にある人工の島「出島」には、オランダ商館が置かれました。ここを通じて、ヨーロッパの学問である「蘭学」や、最新の西洋医学、天文などの知識が日本にもたらされました。また、貿易の中心地として、多くの商人や役人が集まりました。
問8	答え イギリス	19世紀に入るとアジア方面での貿易拡大を目指し、日本近海にも盛んに姿を見えるようになりました。ロシアやアメリカなどの外国船と同様に、通商を求めて幕府に開国を迫る動きを見せました。
問9	答え 下肥	都市部で排出される排泄物は、農村において「下肥（しもごえ）」という貴重な肥料として買い取られました。これは都市と農村を結ぶ循環型経済の側面を持っていました。
問10	答え 田沼意次	田沼意次は商業に注目し、商人に特権を与える代わりに税金を徴収する「株仲間」を公認・奨励しました。また、長崎貿易を拡大するなど、貨幣経済の発展に対応した政策を展開しました。
問11	答え 農業生産性	農業生産性とは、農民が単位面積や一人当たりの労働力でどれだけの作物を生産できるかという効率の指標です。江戸時代には、千歯こきなどの農具や干鰯（ほしか）などの肥料が普及し、二毛作も一般化しました。その結果、限られた土地から多くの米や作物が収穫できるようになり、日本の人口は大きく増加しました。
問12	答え 打ちこわし	人々は価格を釣り上げた商人や米屋を不正であるとして、「打ちこわし」と呼ばれる襲撃を行いました。これは幕府や藩の統治能力に対する不満の表れであり、都市部で頻発しました。
問13	答え 長崎	「四つの口」とは長崎・対馬・薩摩・松前のことです。その中で、長崎は唯一の国際貿易港としてオランダと中国（清）との取引が許されていました。貿易は幕府が管理する厳格な体制の下で行われました。
問14	答え 出島	長崎の湾内に扇形の人工島「出島」を造成し、オランダ商館を移しました。これにより、貿易の統制と管理を幕府が一括して行う仕組みが完成しました。
問15	答え 19世紀	19世紀に入ると、各地で商人たちが原料を供給し、農家の人々を集めて製品を大量生産させる形態が定着しました。この「問屋制家内工業」から「工場制手工業（マニュファクチュア）」への移行により、経済規模は飛躍的に拡大しました。
問16	答え 田沼意次	田沼は商人の組合である「株仲間」を公認し、営業税である運上や冥加を納めさせることで幕府の収入を増やそうとしました。また、長崎貿易を拡大し、銅や海産物を輸出して利益を得る政策も推進しました。
問17	答え 分業	マニュファクチュア（工場制手工業）では、資本家が仕事場を作り、多くの労働者を集めました。一人の作業者が全工程を行うのではなく、作業を細かく分けて分業させることで、効率よく大量の製品を生産することが可能になりました。
問18	答え 欧米諸国	日本が異国船打払令によって外国船を撃退しようとしたことは、欧米諸国にとって敵対的な行為と受け取られました。特にイギリスやアメリカなどの国々は、これに対して強い不満を抱き、軍勢力を用いた開国要求を強める一因となりました。
問19	答え 松尾芭蕉	松尾芭蕉は旅をしながら多くの句を詠み、自然や人情の移ろいを繊細に表現しました。彼の作品は、その後の俳句文学の基礎となる大きな影響を与えました。
問20	答え 1639年	1639年、幕府は宣教師を派遣し、貿易の拠点ともなっていたポルトガル船の来航を禁止しました。これにより、日本へのキリスト教の流入経路が閉ざされることとなりました。
問21	答え イギリス	石炭を燃料とした蒸気機関の実用化が成功し、工場での大量生産が可能になったことで、社会の仕組みが根本から変わる「産業革命」がイギリスで始まりました。これにより、農業社会から工業社会へと急速に転換しました。